

南無阿弥陀仏は
私のいのち



平成 26 年
4 月号

NO.
435

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(撮影 国分 尚三氏)

想 定 外

平成二十三年三月十一日に東日本大震災が発生し、今年で丸三年が経過した。テレビや新聞を見る限り、被災地では今も尚、様々な問題を抱え、震災前のような生活には戻っていない。

当時「想定外」という言葉が多く使われていたが、それこそ想像を絶するような出来事であり、起こりえないと思っていた事が現実には起きた。自己中心的に生きるが故に、自分の思いを超えた出来事が想定外となる。多くの人が「何が起こるか分からない」という事を強く実感した。それから三年経った今、当時の感覚がどれだけ残っているのだろうか。

いつ、どこで、どうなるか分からない身を抱えている私たちには、「生老病死」という事実が常に突き付けられている。その事実をいつの間にか忘れ、他人事で生きている。

もし、自分の思いで計りきれような現実であれば、想定外にはならない。しかし、自身を依り処とする以上、私たちはどこまでも想定外の現実を生きていくことになる。本当は頼りにならない我が身を頼りにしてきた私たちに、「どうかその身に気づいて欲しい」との喚びかけが念仏であった。それは、どんなことも想定内として生かされていく教えであった。



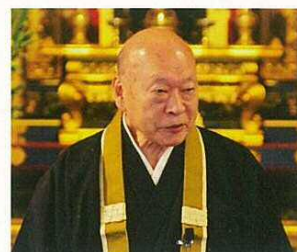
出かけていく聞法会 30周年記念大会

—出演者のご紹介—

〔ご法話 大谷 最高 顧問〕

西徳寺最高顧問。西徳寺の輪番として約 30 年にわたり活躍され、「出かけていく聞法会」の発足を提案され、布教伝道のために西徳寺の聞法活動を支えてこられた。

平成 13 年から本山佛光寺の宗務総長として 3 期 12 年間の任期を勤められる。平成 23 年 5 月、「南無阿弥陀仏は私のいのち」をスローガンに本山中で厳修された「宗祖親鸞聖人 750 回大遠忌法要」では宗門の陣頭指揮を執り、法要を円成された。



〔節談説教 祖父江 佳乃 師〕

昭和 42 年生まれ。祖父、祖父江省念師の説教を聞き育つ。愛知県淑徳大学文学部国文学科卒業。ラジオ局アナウンサーを 2 年経験後、同朋大学仏教専修学科卒業。2007 年、築地本願寺で行われた「節談説教大会」で多くの説教者と出会ったことを機縁に祖父と同じ道を歩むことを決意する。現在、名古屋市・真宗大谷派・有隣寺住職。



節談説教とは、仏教で經典や教義を説くための話芸的技巧。ことばに^{ふし}節（抑揚）をつけ、美声とゼスチュアをもって演技的表出をとりながら、聴衆の感覚に訴える詩的、劇的な情念の説教をいう。

節談説教発展の基盤をつくったのは、天台宗の澄憲（1126～1203）・^{ちやうけん}聖覚（1167～1235）父子が樹立した安居院流と、寛元年間（1243～47）に定円が創始した三井寺派であった。安居院流は浄土宗と浄土真宗に入り、とくに真宗で節談説教が栄えたといわれる。

〔演奏会 混声合唱団エコー〕

2011 年 1 月、竹内乾一郎氏の提案により、16 名の団員によって「混声合唱団エコー」が設立された。テノール歌手の横山慎吾氏にご指導いただき、月 2 回のレッスンに励んでいる。主に西徳寺の法要（報恩講・春季永代経法要）で演奏会を開催。平成 25 年 11 月には「台東区合唱祭」にも参加し、精力的に活動している。



◆指揮 朝田 祐子（指揮者）

千葉県・柏市出身。東京音楽大学卒業、同大学研究科終了。演奏活動の傍ら、長年後進の指導にあたる。現在は足立区の混声合唱団「ふくろう」を指導中。



◆伴奏 金澤 麻里子（ピアノ）

東京都生まれ。武蔵野音楽大学卒業。室内楽ではチェンバロ奏者。4 歳よりピアノを始め、白百合学園在学中より武蔵野音楽大学付属こども音楽教室にて学ぶ。学生時代より 30 年間女性コーラスの伴奏を務め、現在は墨田・葛飾・台東・北区で混声・女声・男声コーラスやソリストの伴奏で活躍中。

〔弦楽四重奏〕

◆中村 翔太郎 (ヴィオラ)

2010 年、第 15 回コンセール・マロニエ 21 弦楽器部門第 1 位。

小澤国際室内楽アカデミー奥志賀、京都フランス音楽アカデミー、ヴィオラスペース、リゾナーレ室内楽セミナー等でマスタークラスを受講。リゾナーレ室内楽セミナーでは基金「緑の風」音楽賞を受賞。2011 年 9 月に栃木県交響楽団と、翌 2012 年 2 月に藝大フィルハーモニアと協奏曲を演奏。学内において同声会賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞受賞。ヴィオラを百武由紀、川崎和憲の各氏に師事。東京藝術大学卒業、2012 年 12 月より NHK 交響楽団契約団員。



◆對馬 哲男 (ヴァイオリン)

東京芸術大学卒業。三菱地所賞、アカンサス音楽賞受賞、読売新人演奏会出演。第 60 回日本学生コンクール 1 位。第 22 回かながわ音楽コンクール最優秀賞。現在、堀正文、松原勝也の各氏に師事。東京芸術大学音楽研究科博士課程在学中。

◆岩崎 彩乃 (ヴァイオリン)

桐朋学園大学 音楽学部卒業。

第 14 回みえ音楽コンクール、弦楽器大学生以上一般の部第 1 位、及び三重県知事賞(最優秀)受賞。第 10 回大阪国際音楽コンクールエスボアール賞受賞。第 5 回ブルクハルト音楽国際コンクール審査員特別賞受賞。

これまでに室内楽を富山室内楽講座にて、東京クアルテットに師事。ヴァイオリンを野口千代光、徳永二男の各氏に師事。



◆黒川 実咲 (チェロ)

第 66 回全日本学生音楽コンクールチェロ部門大学の部第 3 位。

桐朋学園オーケストラとして、ラ・フォル・ジュルネ音楽祭、別府アルゲリッチ音楽祭に参加。2012 年より小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト、小澤国際室内楽アカデミー、小澤征爾音楽塾オーケストラ・プロジェクト、サイトウ・キネン・フェスティバルに参加。現在、桐朋大学音楽部 4 年在学中。

これまでに室内楽を藤井一興、佐々木亮、徳永二男、堤剛、チェロを中島顕の各氏に師事。現在、倉田澄子氏に師事。

出かけていく聞法会 30 周年記念大会 日程表

6 月 14 日 (土)
浅草ビューホテル
午後 2 時～

2:00 開会の言葉

勤行	嘆仏偈・一首引和讃・回向願以
挨拶	西徳寺住職 岸本 秀一
	責任役員 酒井 真一
	評議員会会長 竹内 乾一郎
法話	西徳寺最高顧問 大谷 義博
節談説教	真宗大谷派 有隣寺住職 祖父江 佳乃

休憩

演奏会	西徳寺合唱団エコー
弦楽四重奏	NHK 交響楽団 中村 翔太郎
	東京藝大 對馬 哲男 他 2 名
会食	乾杯

6:30 閉会の言葉



営業にマイナスはない

板橋区在住 大塚 隆宏 さん



今回は、現在板橋区にお住まいの大塚隆宏さんにお話を伺いました。

◆憧れの町、東京

もともとは広島出身で、当時とにかく東京に憧れていましたね。その憧れから、東京の大学を受験して上京しました。まあ大学時代はいろいろ楽しいこと、やりたいことをやっただけ。

就職活動をする際は、家族も親戚もみんな広島にいるから、拠点は広島でと、大学卒業後、広島企業に入社したんだよね。でも、即東京支店に配属されることになってね(笑)。

◆出会い

入社当時、自分が営業部に配属されたときの上司が、僕に不足な知識、経験など、もってないものをいっぱいもっていたから、すごい魅力を感じたんだよね。

ね。だからこの人の下で働きたいと思ったんだよね。

そのころ上司に「うちの会社の花形は営業だ」と教えてもらって。僕の中では花形は社長だろうと思ってたけどね。要は、新しい商権を決めるのも、売上を伸ばすのも、何でもできるのは営業なんだという、営業のノウハウや面白さを、彼に教えてもらいましたね。

◆彼の言葉

営業には目標数値があるんだよね。例えば今年百万だったから、来年は百万にしようとか、目標数値を上げるんだよね。そうすると、必ずしも目標を達成できるわけじゃないんだよね。前年より数値が下回ることもあるんだよね。

でも、彼の言葉を借りると、「営業にマイナスはない」らしいんだよね。正直この言葉の真

意は、未だにわからないんだけど、やっぱり彼の魅力かな、何か営業の確信をついている気がするんだよね。だから彼の言葉には力強さを感じますね。

◆営業の面白さ

どんな職種でも同じことかもしれないけど、営業はとくに、人と人のつながりがとても重要な仕事だと思うんですよ。取引先はもちろん、自分の会社の同僚に信頼されないと仕事にならないからね。その中で多くの人と関わって、信頼関係を築いていく、これが営業の面白ところだと、僕は思うね。

(聞き手 蓮井 邦宗)



お念仏を伝承してくださった三人目の高僧は、中国の曇鸞大師（476～531）です。大師は、すべての人が救われる大乘仏教の四論宗の学派に属する高僧として、多くの人々の尊敬を受けられました。その尊敬のありようは、時の国王・南梁の天子である武帝が、北におられる大師の方に向かつて、「菩薩と礼」されるほどでした。

親鸞聖人は、当時、無実の身で越後に流罪になるといって、念仏者を弾圧する社会のなかで生活しておられます。聖人が、日本のお釈迦さまと尊敬する聖徳太子は、「其れ三宝（仏・法・僧）に帰りますつらずは、何を以てか、枉れるを直さん（『十七条憲法』）」といわれました。そのことをすでに実行して、中国政治の公け人の天子が、大師を尊崇された事実を知り、武帝をも崇められたのでしよう。それで「本師曇鸞は、梁の天子、常に鸞の処に向かいて菩薩と礼す」と讃えられるのです。

曇鸞大師は、仏道を深め弘めるといふ使命感から、『大集経』という、六十巻ものお経の註釈にかかられました。ところが、研究の途中で、病になり、健康でなければ註釈もできな

いと、南方の道教の指導者であった陶弘景を尋ねられ、長生不死の神仙の術を学ばれました。そして、仙術の秘伝である十巻の仙經（道教の經典）を授けられました。喜び勇んで



正信偈の話 ③ 松井憲一

本師曇鸞梁天子 常向鸞處菩薩礼 三藏流支授浄教 焚焼仙經帰楽邦
(本師曇鸞は、梁の天子、常に鸞の処に向かいて菩薩と礼す。
三藏流支、浄教を授けしかば、仙經を焚焼して楽邦に帰したまいき。)

そこで、菩提流支三藏に会われた大師は、長生不死の法を学んだことを自慢げに話しました。すると、菩提流支三藏は、大地に唾を吐き捨てて、叱りました。「どこに、不死の法がある。長生しても死なない人はいない」と教えて、『観無量寿經』を授けました。

浄土の經典が、「無量寿」を説くのは、いのちの長さをいうのではありません。私がある背景には、無量の「寿（いのち）」のつながりとはたらきがあることを教えているのです。太陽・大地・空・気・水・食物・両親・

に出会うことで、長生不死は夢を見ていたのであって、いのちはいたたいたものであると、気づかれたのです。それで、仙經を持つていては、迷いは払拭できないと、大切に求めた心と仙經とともに焼き捨てて、浄土の教えに帰依されました。

曇鸞大師のこの見事な翻りを、親鸞聖人は、「三藏流支、浄教を授けしかば、仙經を焚焼して楽邦に帰したまいき」と讃え、さらに「本師曇鸞和尚は、菩提流支のおしえにて仙經ながくやきすてて浄土にふかく帰せしめき」と和讃されます。

あるお寺の掲示板に、「六十兆の細胞、みんな調和して、活動している、俺が生きたるなんて、よく云うは」とありました。それなのに、自分が生きていると思うから、老化を嘆く。「高齢を嘆くなれない 人もいる」といわれれば、文句がいえませんか。

親鸞聖人は、お念仏がおこれば、信心・如来の心のはたらきとして、自分が生きているとの思いがいつも破られるから、長生不死にとられない生活、「長生不死の神方（『教行信証』）」をいただけると喜ばれました。

山門の言葉

一寸先は闇という よくみれば、その闇は私の中にある

榎本 栄一

「一寸先は闇」、これから先のことは、どうなるか全く予測のつかないことのたとえである。街を歩いていて急に人に刺されたという事件や、いつ起こるか分からない地震の話などを聞いていると、一寸先は闇というのは私たちの現実を言い当てている。

しかし今月の言葉、淡路島に生まれ、念仏詩人といわれた榎本栄一さんの詩の中では、私の中に闇があるという。

闇と言われると暗く、何も見えないところを想像するが、私たちは様々な物を見たり、聞いたりして得た知識や経験を基に生活している。その個人的な知識や経験では、未来を予測できないということを教えてくれているのではないだろうか。

当たり前のことだが、未来のことは誰も分からないことである。それなのに分からない未来を個人的な思いで予測し、不安になったり、満足したりし

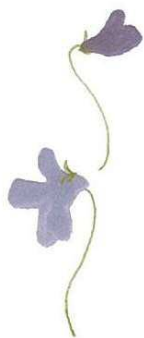
ている。

そのことを無明という言葉で教えらるる、私の中にある闇なのである。親鸞聖人は「無始より已来、一切群生海、無明海に流転し」と、人類がずっと闇を抱えてきたのだと言われる。自己関心で生きている生き方を闇とも思わずに、迷い続けてきたのが私たちなのである。

実は私の中にある個人的な経験や思い込みが未来を狭くし、闇にしているのである。私のものさしでは間に合わないということがはつきり自覚されたとき、すでに未来が開かれていたことが分かるのだ。人間の闇を照らす仏の光に照らされてきた歴史が念仏の道なのである。

一寸先が闇とは、大事な未来があることを表していることわざであったのだ。

(仲井 真裕 記)



光り輝く仏具で永代経のお勤め

3月4日、お天気に恵まれ、10名の方が「仏具磨き」を手伝ってくださいました。過去に経験された方が多く参加され、皆さん、手際よく作業をこなしておられました。お磨き以外にも本堂の椅子を水拭きしていただき、仏具も椅子もピカピカになりました。

午前中の作業が終わり、恒例になったカレーライスで昼食。おかわりされる方も続出、皆さんに喜んでいただき、和やかな雰囲気でした。

皆様のお陰により、「永代経法要」は光り輝く仏具でお勤めさせていただきました。ご協力、誠にありがとうございました。

(木村 専正 記)

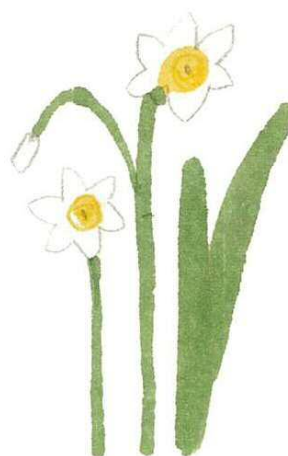


【お手伝いくださった方々】 順不同

前田 篤彌 様	橘 悦子 様	谷口 博一 様	安田 琢磨 様	津久田 愛之助 様
柿沼 一郎 様	柿沼 洋子 様	鈴木 弘子 様	長尾 将男 様	古田 新 様

日誌

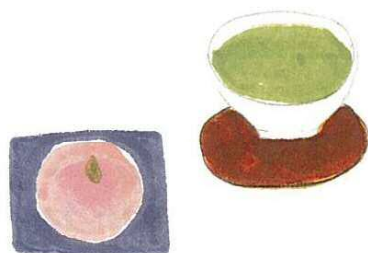
- 2月17日～21日 本山・第十次聞法推進員養成研修会
(山崎・大橋参加)
- 2月22日 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 木村主任
- 2月23日 城南ブロック会聞法会
(大田区・ホテル東京イン 参加者20名)
- 2月25日 東京教区研修会(横浜市 正円寺)
仏教青年会座談会
- 2月27日 『唯信鈔』に聞く(第3回)講師 宗 正元師
- 2月27日・28日 宗祖忌
- 3月1日 混声合唱団「エコー」練習
- 3月1日～7日 岸本住職 近江八幡周辺 差向布教 派出
- 3月4日 仏具磨き(参加者10名)
- 3月7日・8日 中興忌
- 3月7日～9日 山崎 滋賀県彦根周辺 差向布教 派出
- 3月8日 混声合唱団「エコー」練習
同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 大橋 伊知郎
- 3月9日 城北ブロック会聞法会
(王子 北とびあ 参加者19名)
- 3月11日 仏教青年会レクレーション「寄席の会」
(上野鈴本亭 参加者27名)
- 3月12日 婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く
総代会
- 3月13日 東京教区研修会(新横浜グレイスホテル)
- 3月15日 定例聞法会
混声合唱団「エコー」練習



えこお志お礼

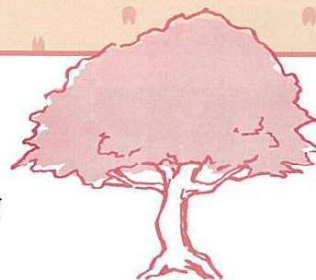
ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

品川区	木原 麗子 様
台東区	平岡 誠司 様



掲示板

平成26年4月



4日(金)	午後2時	出かけていく間法会30周年実行委員会
5日(土)	午後1時半	定例間法会
	午後3時半	混声合唱団「エコー」練習
12日(土)	午後6時	同行会「正信偈の教え」に聞く 法話 高橋 淳
16日(水)	午前11時	婦人会総会
19日(土)	午後3時半	混声合唱団「エコー」練習
22日(火)	午後7時	仏教青年会総会
24日(木)	午後1時半	『唯信鈔』に聞く(第5回) 講師 宗 正元師
26日(土)	午後6時	同行会「正信偈の教え」に聞く 法話 蓮井 邦宗

城南ブロック会

去る2月23日(日)、大田区馬込の東京インに於いて、会員20名のご参加を頂き城南ブロック会が開催されました。なお、担当の大橋君が体調不良により山崎が代行させていただきました。

今回は初参加の方がお一方おられ、他の会員のお声掛けによって懇親会にも参加していただきました。法話のテーマである釈尊誕生の意義は、唯、阿弥陀さんのご本願を説くことであることを明らかにしていただきました。そしてそのみ教えを唯、聴き訪ねていくことこそが私達の誕生の意義であると教えていただきました。

その後、時間一杯まで質問が出され、熱心に聴聞されていると感じました。

懇親会では西徳寺へのご意見はもちろんのこと、ご先祖とどう向き合うのか、また戦争時代のお話などが聞かれ、改めて様々な世代の人が一所に会する意義を感じました。

次回は平成26年5月18日(日)、「大井町きゅりあん」にて開催予定です。お誘い合わせのうえご参加下さい。(山崎 哲 記)

青年会レクレーション 寄席の会

3月11日に27名の参加者のもと、仏教青年会レクレーションが行われました。今回は「寄席の会」と題し、今年で開席157年を迎える上野・鈴木演芸場に足を運びました。

三味線や古典落語の他に、ギター漫談や漫才など非常に盛り沢山の内容で、参加者も大いに楽しんでおられました。(高橋 淳 記)

編集後記

4月は卯月ともいわれます。卯月は、卯の花が咲く季節なので「卯の花月」を略したとされ、「卯」は「初」「産」ということを表し、1年の循環の最初という意味があるといわれます。

4月は新年度の時期であり、入社式や入学式のシーズンです。様々な人々が新しい環境での生活がスタートするこの季節、私自身も新たに出直していけと呼びかけられているように感じます。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

 saitokuji@ce.wakwak.com